

第 23 回関西大学倫理学研究会

日 時： 2017 年 7 月 8 日（土）

場 所： 関西大学尚文館 508 教室

内 容：

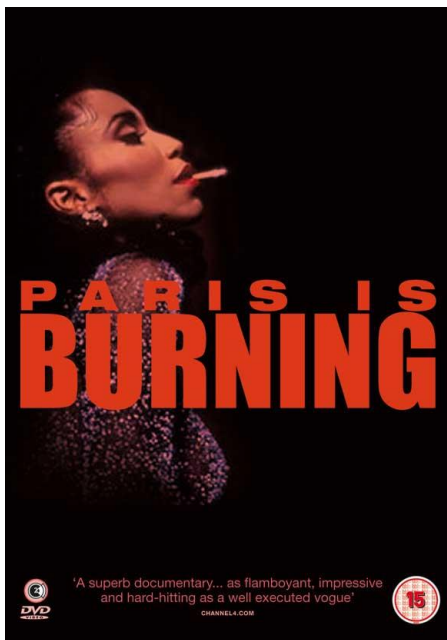
14:45-15:45 トランスジェンダーが直面する「問題」とは何か

宮田りりい氏（本学大学院文学研究科博士後期課程・教育学）

医療モデルから社会モデルへの転換として、トランスジェンダーの（精神）病理化から、近年の脱（精神）病理化運動の台頭に至るまでの系譜を整理した上で、当該集団が直面する「問題」がどう捉えられてきたを批判的に考察したい。

16:00-17:30 ドラッグ・クイーン再説——映画『パリは燃えている』をめぐって(仮題)

魚住洋一氏（京都市立芸術大学美術学部元教員・哲学）



先日上梓された「パリは燃えているか？——ドラッグ・クイーンたちへのレクイエム」（『龍谷大学論集』第 489 号、2017 年 3 月、<http://w3.kcua.ac.jp/~uozumi/paris.pdf>）で十分論じることができなかった問題について、映画『パリは燃えている』を一部上映しながら考えてみたい。映画に映し出されたドラッグ・ボール(drag ball)をめぐる時代状況や日本へのドラッグ・パフォーマンスの始まりの経緯などにも言及したいが、とりわけ問題にしたいのは、ジュディス・バトラーが主張したドラッグ・パフォーマンスによる政治的な「攪乱」の挫折、および、ドラッグ・クイーンたちがパフォーマンスを競い合うなかで作上げた疑似家族「ハウス」について、それを「生き残り」の戦略としてあらためて考えることである。

入場無料。事前の申し込みは不要です。

問合せ先： 品川哲彦（t990019@kansai-u.ac.jp 関西大学文学部教授）

関西大学倫理学研究会（<http://www2.itc.kansai-u.ac.jp/~tsina/kuses/kuses.htm>）

本会の活動については、電子ジャーナル『倫理学論究』（同上の URL）をごらんください。トップページ左側の「お知らせ」をクリックすると、上記のご案内と魚住氏のサイトへのリンクが出ます。

会場案内：



阪急千里線関大前駅下車。梅田・京都方面からお出でになる方は阪急京都線の淡路駅で北千里行に乗り換えてください。北千里行の場合、先頭車両にお乗りになるのが便利です。北千里側の降り口（北口）の北千里に向かって右側からお降りになり、コンビニやボーリング場やラーメン屋などの並ぶ通りを（西門は入らずに）左手に踏切がみえるところまで直進。右折して、ラーメン屋や焼鳥屋などの並ぶゆるやかな上り坂のつきあたりが正門です。正門を入れてすぐに左手の上り坂を上っていくと、道の右側の下に芝生がみえてきますが、その芝生に面した建物が尚文館（上の図の⑥）です。坂に面している入口を入るとそこは3階です。会場は5階にある508教室です。入口左手にある階段かエレベーターで上がってください。